【　幼児教育の充実について　】

一　幼児教育の充実について

　はじめに、幼児教育の充実についてですが、

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で、極めて重要であることから、幼稚園・保育所・認定こども園のいずれにおいても、質の高い幼児教育が受けられるようにすることが大切であると認識しています。

　昨年 6 月に道および道教委で設置した幼児教育推進センターでは、本道における幼児教育の質の向上を図るため、幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼児教育相談員として委嘱し、幼稚園等を訪問して園内研修の講師を務めたり、助言を行う幼児教育相談員派遣事業を実施していると承知しています。

　この事業の取組状況などについて、以下、伺います。

（一）事業の取組状況について

　幼児教育相談員派遣事業について、昨年 6 月のセンター設置後から、今までの取組状況について伺います。

**（答弁：幼児教育推進局幼児教育推進センター長　大畑明美）**

**・全道 14 管内で、施設長や保育者養成大学の教授等を幼児教育相談員として委嘱し、園内研修棟における助言等に当たっているところ**

**・相談員の幼児教育施設への派遣回数は、令和元年度は 47 回、令和 2 年度は各**

**地域の新型コロナウイルス感染症により、施設からの派遣要請が減少したことから10月末現在で23回**

（二）事業の成果について

派遣事業を活用した幼児教育では、どのような成果があったのか伺います。

**（答弁：幼児教育センター長　大畑明美）**

**・派遣をお願いしている相談員は、今日的な課題や個々の施設の課題に応じた助言等をきめ細かく行っていただいており、各園からも『職員にとって良い刺激となった』、『園内研修の必要性を再認識した』といった声が聞かれている。**

**・センターとしては、施設における幼児一人一人に対する保育の質の向上、職員のチーム力を高め、施設の方針に基づく一貫した保育の展開等につながっていくものと期待。**

（三）令和2年度の実施状況について

今年度はコロナ感染症の影響もあり、派遣が進まない状況であると考えますが、センターではどのような工夫を行い派遣事業を実施しているのか伺います。

**（答弁：幼児教育推進局長　池野敦）**

**・センターでは、新型コロナウイルスの感染状況を適切に把握するとともに、相**

談員の健康チェックを十分に行ったうえで派遣しているが、9月からは現地に赴くばかりではなく、ウェブ会議システムを活用したリモートによる助言も実施

・これに参加した保育者からは、テーマを焦点化した話し合いが十分できた、遠くに在住していて、なかなか来てもらえない相談員からの助言を受けられたなど、高い評価をいただいた

・従来からの施設派遣と併せ、今後、リモート助言の活用も増やしてまいりたい

（四）今後の取組について

幼児教育施設に対する相談員によると助言は幼児教育の質の向上を図るためには重要と考えますが、センターとして今後どのように取組んで行く考えなのか伺います。

（答弁：教育部長　志田篤俊）

・保育の質の向上を図るためには、園内で共に学びあうことができる、園内研修の充実を図ることが重要であると認識

・相談員の知見を活用し、円買い研修の内容と関連させた園内研修用教材を作成、複数園合同の研修を行ったりして、各施設における園内研修を充実

・相談員の施設への派遣に加え、リモート助言を多くの施設で行うことなどを通して、幼児教育の質の向上に向けた取組を着実に進めてまいる。